



図Ⅲ-15. ヤコウガイの蓋の径と殻高の関係

6. ヤコウガイの蓋の径と殻高の関係

(1) 目的

放流したヤコウガイの死殻は多くの場合、捕食時の攻撃により損傷しており、死亡時の大きさが不明のことが多い。そこで、損傷を受けることの比較的少ない蓋の大きさからヤコウガイの大きさを推定するために、殻高と蓋の径の関係を求めた。

(2) 方法

測定には、水産試験場八重山支場で1993～94年に種苗生産し、捕食試験で肉食性巻貝に捕食された殻及び蓋に損傷を受けていないヤコウガイを用いた。測定個体数は334個体で、殻高は5.6～61.2mmの範囲であった。

(3) 結果

蓋の径と殻高の測定結果からアロメトリー式を求めると

$$SH = 2.564 OD^{0.9653} \quad SH: \text{殻高、} OD: \text{蓋の長径}$$

であった。この式では、殻高が大きいものになると蓋径からの推定値が、過大推定される傾向にある。今回の測定範囲では、寄与率 (R^2) はほぼ同じであるものの下記の2次式の方が適合した (図Ⅲ-15)。

$$SH = -0.0153 OD^2 + 2.5849 OD - 0.4608$$

参考文献

- 1) 下池和幸 (1994) : ヤコウガイ稚貝の摂餌生態. みどりいし, (5), 16-18, 熱帯海洋生態研究振興財団.
- 2) 角田信孝 (1989) : サザエ人工種苗の放流試験. 西海区ブロック藻類・介類研究会報, (6), 121-136.
- 3) 井谷匡志他 (1993) : 天然漁場におけるサザエ20mm種苗の放流実験-I. 生残率について. 栽培技研, 21 (2), 71-74.
- 4) 沖縄県水試八重山支場 (1995) : 平成6年度地域特産種量産放流技術開発事業報告書, 亜熱帯磯根グループ.